

平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	“団塊世代”のセカンドビジネス「観光サポーター」による地域の活性化		
法人名	学校法人帯広コア学園		
学校名 ((2) のみ)	帯広コア専門学校		
代表者	理事長 神山恵美子	担当者 連絡先	山崎伸太郎 TEL (0155)48-6000

1. 事業の概要

団塊世代等社会経験者を対象とした受講生を募集し、学習の場を提供するとともに、「十勝の観光文化検定」を地域で支える仕組み、上位資格の検討、検定合格者の活躍の場等を検討するため、6講座、アンケート調査、先進事例調査、観光関係機関との懇談会を実施した。

(1) 講座の実施

講座には、受講生17名が参加し5講座を実施し、現地研修を1回実施した。

① とち学講座

十勝の自然、歴史、観光、生活・文化・スポーツ、食、産業・経済の6分野に関する知識を深め、十勝の魅力を再発見し、十勝を訪れる人などに発信するとともに、生涯学習や地域の歴史・文化を伝承するため6日間開催した。

② インターネット・デジカメ講座

情報の発信、取得に有効なパソコンを活用したデジカメ操作、インターネットの活用、電子メールの活用などの講義を5日間開催した。

③ NPO法人設立に関する知識講座

地域観光を支えるために有効であると思われ、更に団塊世代の活躍の場の提供に有用であるNPO法人の設立、運営に関する知識及び起業に関する知識についての講義を2日間開催した。

④ 安全知識講座

病気、ケガなどの緊急時における対応策、各種施設に設置されているAEDの使用方法などについての講義を2日間開催した。

⑤ 特別講演

広く十勝管外へ目を向け視野を広げるため、観光カリスマによる「選ばれ続ける観光・リゾート地とは」をテーマに特別講演を開催した。

(2) アンケート調査の実施

とち学講座受講者を対象に調査を実施し、「十勝の観光文化検定」講座の受講動機、講座のあり方、試験制度などについて受講生の評価、意向を調査し、とち学観光サポーター制度の提案、カリキュラム開発を行った。

(3) 先進事例調査の実施

観光を地域で支える体制づくりが重要であることに鑑み、地域観光を支えているNPO法人の活動事例、タクシー業界と連携している事例等を調査し、とち学観光サポーター制度の提案、カリキュラム開発を行った。

(4) 成果報告会・観光関係機関との懇談会開催

受講者17名は、長く十勝で生活している者、定年退職後に十勝へ戻り生活している者など多様であることから、今まで体験したこと、感じていたこと、今回の講座により学んだことなどについて意見交換し、今後の観光振興の一助とするべく、観光関係機関との懇談会を開催した。

2. 事業の評価に関する項目

① 目的・重点事項の達成状況

- ・ 講座受講者は17名で計画を上回る参加があつた。
- ・ 団塊世代において、今後地域(社会)貢献を考えている人が多くいることが分つた。
- ・ 十勝観光についての取り組み、手法などについて地域に発信できた。
- ・ 十勝の観光文化検定試験についての今後の展開方向を発信することができた。
- ・ 観光関係機関との連携ができた。

② 事業により得られた成果

- ・ 団塊世代等受講者における情報の発信、取得方法の向上が図られるとともに、講座内容は団塊世代に評価され、今後の教育プログラムに活用できることが分つた。
- ・ 起業にあたっての基本的事項を学ぶことができたとともに、地域観光振興にはNPO法人などの設立・活動が必要であることが分つた。
- ・ 十勝の観光文化検定試験の上位資格制度の創設を望んでいる人が多いことが分つた。
- ・ 上位資格制度(仮称:とちか観光マスター)の講座においては、ホスピタリティの向上、各分野の知識をより深める講座とし、各分野の代表的な分野に特化した教育プログラムが必要である。
[依田勉三と晩成社、有機農業、スイーツ、北海道遺産(ばん馬、モール温泉、旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群、アイヌ語地名)など]

③ 今後の活用

- ・ 本校が地域の拠点となり、商工会議所、教育委員会などと連携し、講座の開催、講師の派遣、試験検定委員会委員などを通じ、人材育成に取り組むとともに、学習機会の場を提供する。
- ・ 本事業で得られたプログラムを関係機関にインフォメーションし活用していただくとともに、更に検討を加え本校学生教育に取り入れるとともに、社会人講座開催へ結びつける。

④ 次年度以降における課題・展開

ア、各分野における代表的分野に特化した講座の実施

- ・ 専門講師の確保
- ・ 対象者の検討
- ・ 市民大学講座との連携
- ・ 商工会議所、観光協会等との連携

イ、公開講座の定期的実施

- ・ 対象者、場所、時間の検討
- ・ 関係機関と連携した開催により広く地元の人に聴講してもらう体制の検討

3. 事業の実施に関する項目

① アンケート調査

現行「十勝の観光文化検定」講座の受講動機、講座のあり方、試験制度について、更に上位資格制度創設についての希望の有無、資格取得後の活動意欲などについて調査を実施した。

調査対象1: 本事業受講者17名

- | | |
|------|---|
| 調査項目 | ・ 受講動機、各講座の評価等 |
| 調査結果 | ・ 受講動機は、自己啓発、社会に役立ちたい、将来役に立つと考えたことが主であり、学習意欲がある人、社会貢献を考えている人が多い。
・ 長く十勝に住んでいながら、地元の生活、文化等身近でありながら知らなかったことを学べたが、それぞれの分野について深くふべきとの意見もあり、上位資格制度において検討すべき事項となる。 |

調査対象2: とちか学講座(市民大学講座)受講者47名

- | | |
|------|--|
| 調査項目 | ・ 受講動機、講座内容の満足度、上級資格制度に対する意向、試験合格後の活躍の機会への参加意向等 |
| 調査結果 | ・ 調査回答47名中60歳以上は66%である。
・ 受講動機(複数回答)は、「関心があった」25名、「知識を身につけるため」25名、「ボランティア活動に活かすため」12名の順であった。
・ 講義内容、回数、時間等はおおむね満足との結果であった。
・ 十勝検定試験を受ける動機は、「自己啓発のため」「関心があった」「ボランティアに活かせるため」の順であった。
・ 上級試験制度ができた場合の受験希望は47%で、合格後に観光ガイドなどとして参加したいという人は、「是非してみたい」「条件があえばしてみたい」を合すると62%で上級試験の実施、合格後の活躍の場を希望している人も多く存在する。 |

②カリキュラムの開発

- ・団塊世代等を対象としたカリキュラムとしては、本校が実施した①とち学 ②インターネット・デジカメ ③NPO法人設立に関する知識 ④安全知識 ⑤特別講演 は、受講者の評価も高く効果のあるカリキュラムであったと認識できたので、これらをベースに実施する。
- ・とち学講座においては、各分野の代表的分野に特化したカリキュラムも取り入れる。
- ・広く地域の人に情報を発信するために、定期的に特別講演(公開講座)を開催する。

③実証講座

団塊世代等が今後地域観光振興の一翼を担ってもらうために必要な5講座を実施するとともに、現地研修を実施した。

受講生にとっては、忘れていた事項を思い出す機会となるとともに、新たな知識を習得する機会となり、積極的な受講姿勢がうかがえた。

また、受講生同士、講師との多くの出会いに満足が得られた。

期 間 平成19年11月13日～11月30日の15日間

受講者 17名〔56歳以上10名〕(男10名、女7名)

内 容 ①とち学講座 ②インターネット・デジカメ講座 ③NPO法人設立に関する知識講座
④安全知識講座 ⑤特別講演

④先進事例調査

観光を地域で支える体制づくりが重要であることに鑑み、地域としての取り組み、地域観光を支えているNPO法人の活動事例、タクシー業界との連携事例等について調査を実施した。

これらの調査結果から、地域全体としての取り組み、企業の参加、タクシー乗務員の観光知識の向上などが必要である。

また、上位資格制度を創設にあたり、講座内容の充実が必要であり、資格取得者に活躍の場を提供することも必要である。

⑤その他

- ・今後の地域振興に観光は欠かすことができないものとなっており、更に団塊世代の知識、経験を大いに活用すべきと考え、観光、団塊世代をテーマとして取り組んだ。
- ・とち学講座は、昨年度は帯広商工会議所(検定試験委員会)が主催でおこなわれていたが、本年度は市民大学講座として開催することとなつたので、商工会議所と協議し重複開催を避けるため、本事業参加受講者においても市民大学講座にて受講することとした。
- ・インターネット、デジカメ講座においては、パソコンは持っているが有効活用されていない人が多く、ITリテラシーのばらつきに対応するため、講師に補助者2名を配置して実施した。